

連続テレビ小説

あ

さ

が

来

た



原案：古川智映子「小説土佐堀川」 脚本：大森美香
音楽：林ゆうき 主題歌：AKB 48「365日の紙飛行機」
ヒロイン：波瑠

【総合】（月～土）午前8時～8時15分「再」午後0時45分～1時
【BSプレミアム】（月～土）午前7時30分～7時45分
【再】午後11時00分～11時15分「1週間分」（土）午前9時30分～11時
平成27年9月28日（月）～平成28年4月2日（土）（156回）



あなたの声と受信料が公共放送

<http://nhk.jp/asagakita>

激動の時代を

明るく元気に駆け抜けた、

おてんば娘の奮闘記。

幕末、京都の豪商の次女に生まれたヒロイン「あさ」は、相撲が大好きなおてんば娘。大阪有数の両替屋の次男・新次郎と結婚することが親同士の約束で決められていました。心ときめかせ嫁いだものの、時代に合わなくなった両替屋の経営は火の車。それでも夫は、三味線など風雅に興じるばかり。いよいよ倒産が迫る中、炭坑経営の話に耳にしたあさは、石炭に可能性を感じて単身、九州へ向かいます。なんとか手強い坑夫たちの説得に成功し、新たな事業をスタートさせます。一方、姉のはつが嫁いだ



両替屋は、明治維新の荒波にのまれて倒産し、姉一家は姿を消してしまいます。やっとの思いで探し出したにもかかわらず実家からの援助を拒む姉をあさは説得し、やがて姉夫婦は新しい場所で再出発していきます。

一方、実業家として奮闘するあさは、大阪の発展に尽す五代友厚と親交を深めます。

「新しい事業を始めたい人を支援する存在であれ!」との言葉を託されたあさは、銀行

経営を始め、多くの人の志を支援していきます。夫・新次郎も妻の姿を見て、お金もうけ

とは違う「仕事の意義」を感じ、動き始めます。

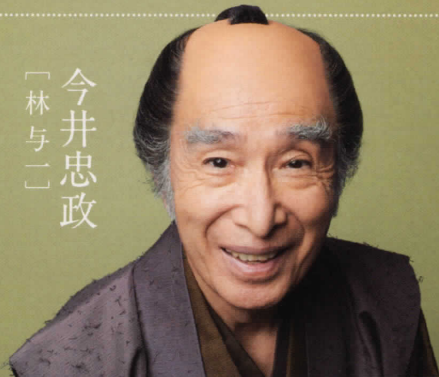
時は流れ、あさと新次郎が最後に引き受けた仕事は

「女子教育の発展は社会の発展につながる」との考えから、

日本最初の女子大学校の設立でした。



今井忠政
「林与一」



祖父

今井忠興
「升毅」

父



京都・今井家

母

今井梨江
「寺島しのぶ」



あさ(少女時代)
「鈴木梨央」



ヒロイン



あさ「波瑠」



← 許

姉

はつ「宮崎あおい」



← 許

ふゆ「清原果耶」
今井家・お付き



うめ「友近」
今井家・お付き



五代友厚「ディーン・フジオカ」

薩摩藩士・あさの師



新次郎の三味線の師匠
美和「野々すみ花」



白岡正吉
「近藤正臣」



父

母

大阪加野屋・白岡家

白岡よの
「風吹ジュン」



白岡新次郎
「玉木宏」



息子

雁助
「山内圭哉」
加野屋・大番頭



亀助
「三宅弘城」
加野屋・中番頭



連続テレビ小説



あさが来た

人物相関図

眉山惣兵衛
「柄本佑」



息子

父

大阪山王寺屋・眉山家

眉山栄達
「辰巳琢郎」



母

眉山菊
「萬田久子」

